

「日本近代化に貢献したキリスト者」—共に生きる世界を目指して

第2回 貧民街の聖者—賀川豊彦

1 日本と近代化、そしてキリスト教

- ・近代の二つの顔：
 - 欧米をモデルとした近代的立憲国家路線と
 - 天皇による国民統合を旨とする絶対主義国家路線
- ・急速な上からの近代化：富国強兵、欧米に追いつくことと民族精神を浸透させること
- ・キリスト教は欧米的なものの窓口であるとともに、天皇制国家にとっての障害
- ・キリスト教は中央から疎外されつつも、近代化へ貢献した
 - とくに、教育、医療、福祉、人権などにおける近代化へ積極的関与

2 大正期のキリスト教、第二世代の教会

- ・一方での大正デモクラシー、大衆文化の開花と、他方における国粹主義・国家主義の台頭
- ・キリスト教の私事化、内面化
 - 「キリスト教の私事化、内面化は避けられなかった。草創期にみられた、キリスト教を近代日本形成の精神的基盤とする考え方は、キリスト教が天皇制国家に忠実な宗教ということで落ち着いていった。それと並行して、キリスト教は個人の内面的煩悶や葛藤を解決する精神的指針や人生観を提供する宗教になっていった。これが教養主義、文化主義といった思想風潮によって助長されたことはいままでのない。つぎに、青少年時代にキリスト教に入信した場合、大人になり、社会に出たとき、キリスト教も卒業する信徒があらわれた」（「第七章 大正期のキリスト教界」、土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』新教出版社、229頁）
- ・信徒の主要な社会層は都市中産階層

3 賀川豊彦（1888-1960）

- ・欧米においてもっとも著名なキリスト教徒
- ・キリスト教社会運動家（スラム伝道、労働運動、農民運動、消費組合運動）、文筆家、伝道者（神の国運動）、政治家
- ・人間は変わり得る（神にあって）、

無価値な人生（病、生きる意味）→ 無価値な世界に住み苦しみ奮闘する神
→ 「私も神様のように奮闘しよう」
（『無の哲学』）

- ・罪人の一人、限界多き人間としての賀川
戦争協力、部落差別（『貧民心理の研究』の功罪・限界）

<マタイ福音書>

25:31 「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。32 そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、33 羊を右に、山羊を左に置く。34 そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。35 お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、36 裸のときに着せ、病気のと看に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』37 すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。38 いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。39 いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』40 そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』41 それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。42 お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、43 旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のと看、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』44 すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』45 そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』46 こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」

4 賀川豊彦の軌跡

父母の死と賀川家の破産・没落、病（胸部疾患）：神戸→徳島

1904：キリスト教入信（アメリカ南部長老派教会宣教師の感化→日本基督教会）

1905：明治学院高等部神学予科入学

1907(明治 40)・19 才：明治学院高等部予科修了、岡崎教会へ応援伝道、結核、神戸神学校（アメリカ南部長老派教会ミッション）入学

1908：『死線を越えて』原稿を携え上京、島崎藤村訪問、京都帝大病院にて手術

1909：神戸新川にて路傍伝道、新川へ転居

